

英語教員としての歩み

松江北高等学校 八幡成人

英語教師の基盤を作っていたいただいたのは、13年間勤務した松江南高校でした。そこでは、ベテランの先生方が、若い私たちに無言の後ろ姿で教育をしてくださいました。教科書の1課を扱うのに、膨大な量の本を読み込んで授業に臨まれるM先生。学校が終わると自分の英語スピーキング力をさらにつけるために駅前のイオンへと急がれるN先生。生徒の心に響くお話の得意なI校長先生（多くの生徒が体育館での講話をウォークマンで録音していた）。進路指導の数字に隠れた裏側を見事に分析されるI進路部長。毎日が本当に勉強の連続でした。英語科の教員が週末になると、ALTの自宅に集合して、勉強会を実施したのもいい思い出です。そして夏休みになると、みんなで揃って遠方へ研修(?)旅行に出かけたものです。

そんな南高の英語指導で一つだけ腑に落ちないことがありました。当時は、二次力さえ鍛えておけば、センター試験などどうにでもなる、という指導体制でした。しかしかなりの二次力を持っているはずの生徒が、センター試験で取りこぼしている実態がありました。これに疑問を抱き始めた私は、南高勤務最後の年に、同僚のみなさんに無理を言って少し早めから準備をさせてもらったんです。その時に使用した教材が福崎伍郎『決める!』(学研)でした。加えて、私がそれまでに溜めていたデータをプリントにまとめて、各大問ごとに仕上げていったのです。幸いその生徒たちは過去最高の結果を残し、私のクラスは平均点180点を記録しました。その時に使ったプリントをまとめたものが、大田高校で初めて冊子化した『英語センター対策本』(自費出版)で、以来現在改訂11版まで版を重ねています。この教材が口コミで広まっていき、今では全国の先生方から申し込みがあります。昨年ピアソン桐原の編集者が、私の長年の取り組みを理解してくださって、全国の現場にこの冊子を無料で届けるというサービスをしてくれています。

若い頃から、東京外国語大学の竹林 滋教授の下で、辞典の編集の勉強をさせてもらうチャンスに恵まれました。編集会議で東京に出かけるたびに、本でしか名前を知らない一流の先生方にたくさんお会いすることができたことは、私の英語人生をさらに豊かなものにしてくれました。忌まわしい「宝島事件」の余波で、さらに正確さを期するために、英米の一流言語学者を顧問に招き、全ての注記・用例を総点検していただくという、日本の辞書界では初めての画期的な試みが行われます。アメリカからハーバード大学のボリンジャー博士、イギリスからロンドン大学のイルソン博士がその任に当たられ、私が連絡係を務めることになりました。博士たちとご一緒に仕事をした数年間は、一番英語の勉強になった時期だったと感じています。三浦新市教授(慶應大学)と論争した forget + V-ing の語法⁽¹⁾、副詞 lately/ recently の違い⁽²⁾、福村虎次郎教授(北海道大学)とやりあった名詞 + as + S + V の用法、considerably の使い方⁽³⁾、April Fool's Day の表記⁽⁴⁾など、英語の精緻な語法研究にのめり込んだ時期でした。⁽⁵⁾ボリンジャー博士が亡くなられた後は、ジョージア大学のアルジオ博士に引き継いでいただきました。学習辞典の使い方を現場目線で私が解説した『英語の辞書指導』(研究社)と、その改訂版『ライトハウス英和辞典の活用法』(研究社)は日本初の試みで、今でも高く評価して頂いています。

松江南高校の次に勤めた大田高校では、若手の先生方のご協力と奮闘もあり、さらには理解ある管理職の応援もあり、進路部長として過去にない成果を残すことができました。

「チームワーク」の大切さをまざまざと実感したことでした。ここで作成した1年～3年生の月別「**進路指導シラバス**」は、実は松江南高校時代の進路部長のI先生が毎日やっておられることを、横目に見ながらメモしていたものを、自分のフィルターでまとめ直したものです。飛躍的な成績の伸びは、県内外から注目を浴び、全国から押し寄せた学校訪問で一番喜ばれる、当時では例のない資料となりました。

続いて勤務した津和野高校では、「教育の町」という津和野町のうたい文句とは裏腹に、行政の応援もなく、まったく投げっぱなしの指導がまかりとおっていました。幸い英語科が中堅・若手の機動力に長けた集団であったので、新たな取り組みをずいぶんやりました（中学校の復習教材作成、湯田温泉を貸し切ったの学習合宿、など）。また総務部長としても数々の新企画に挑戦する三年間でありました。「変わる」ということの大切さを学んだように思います。中学校が完全に機能しておらず協力してもらえない辛い状況の中、それならば自分たちでやろう、と英語科で取り組んだ「中学校の復習教材」は、松江北高の新入生の橋渡し教材 *Take the First Step* として姿を変えながら、今でも輝きを放っています。

松江北高に勤務するようになって、年のせいもあり、病魔に襲われ始めました。心臓手術を初めて体験し、健康のありがたさを実感する毎日でした。今では6つの病院をはしご（！）しながら、だましだまし勤務していますが、元気のかたまりであった当時の私では考えられないことです。3年担任をすると病気になる、という当時北高の先輩から聞いたジンクスは現実のものとなりました。体だけは大事にしなければいけない、という「健康」のありがたみを痛感したことでした。

今も、北高の生徒たちの英語学習に役立つ資料の開発に没頭しています。先の「センター対策本」は、北高だけでなく、松江市内の普通高校生徒がほとんど使ってくれるようになりました。「単語が覚えられない」という生徒の一番の苦労に対して、ずいぶん前の北高英語教師故**山本和夫**先生から授かった語源・語幹を用いたの学習プリントは、昼休み100枚限定で職員室前に並べたところ、これを求めて長い行列ができたものです。数年後『**英単語はアタマ・オナカ・シッポで攻略だ！**』（自費出版）へと進化します。「発音・アクセント問題」は上位でも比較的苦手な生徒が多いことから、これを解消しようと作ったのが、最新刊『**発音・アクセント問題の攻略法**』（自費出版）です。これらの冊子はいずれも大赤字の中で、「生徒のために」という思いだけで続いている私の密かな活動です。

以前、ベネッセが、そのホームページ上で「**文例の森**」という企画を立ち上げたことがあります。これは全国の先生方がお作りになっている指導資料を登録して、それを自由にダウンロードして進化・改善していこうという趣旨でとても重宝しました。いたく賛同した私は、大田高校の進路指導で作った資料を全て提供させてもらったものです。しかし、著作権の問題も絡んで、残念ながらこの企画は途中で断ち切れになってしまいました。英語教育の世界でもこのような試みができれば、若い先生方のずいぶん役にたつのに、さらなる発展につながるのに、という思いがずっと心の隅にありました。2011年12月ようやく「**チーム八ちゃん**」(<http://teamhacchan.wordpress.com/>)として、個人で立ち上げることができました。これは全国の先生方が作られた英語指導資料をサイトに登録していただいて、会員の先生方が自由にダウンロードして、改善・進化・発展させていただくことを狙いにしたものです。現在会員数は400人を超え、「ダウンロードサイト」には、

200本以上の各種ジャンルの指導資料が登録されており、ずいぶん喜んで利用していただいています。今まで育てていただいたご恩返しのご気持ちで取り組んでいます。

生徒のためになる教材作りという点では、数々の参考書・問題集の編集・作成にあたってきました。⑥幸い現場のご支持をいただき、長く続いているものもあります。中でも『**センター試験重要問題演習（筆記）**』（ラーンズ）は、心臓の手術をしたばかりの病み上がりの時期に関わった問題集で、全国の先生方の熱烈なご支持をいただき、現在まで版を重ねて参りました。来年度は大きくレイアウトを刷新し、内容とともに画期的な対策本に生まれ変わる予定です。北高では、私をはじめ、たくさんの先生方が生徒のために準備した数々の指導教材は、校内ランに収められ、いつでも自由に利用することができます。転勤の際の何よりの餞別は、これらの膨大なファイルの数々だと確信しています。

長らく英語教師を勤めてきて、若い先生方にこれだけは自信を持って言えるということをお伝えしておきます。まず「教師の力以上に生徒の力が伸びることはない」ということ。ならばひたすら英語の力を磨いて、生徒にとって高い壁でありたいものです。いくら忙しくても、この努力を怠っては生徒はついてきません。そして出会った「縁」を大切にすること。今まで人並み以上の多くの人と出会ってきました。そんな人たちに助けてもらったことも数限りなくあります。縁あってこそその出会いを大切に、人間関係を豊かなものにすることで、自分の世界・視野を大きく広げることが可能になります。「先生は顔が広いですね」と言っていたことが多のですが、若い頃から自ら進んで全国を飛び歩いたことのご褒美だと考えています（最近では「めざましテレビ」の**前刀禎明**さん、文部科学省の教科書調査官**向後秀明**先生、「風に立つライオン」のモデル**柴田紘一郎**先生、**マジシャンハマー**と知り合いました）。教員の狭い世界にあぐらをかかず、いろいろな場に自ら出かけていく姿勢が重要です。そして、送り出した教え子たちが立派に活躍してくれる姿こそが、この仕事の何よりの報酬となります。

好きなカード・マジックの英文解説書を翻訳してくれという依頼は、今まで全て断ってきているのですが、職を離れてちょっと時間の余裕ができたなら、挑んでみたいと考えています。自宅の『蔵』には世界中のカード・マジックの膨大なコレクションが眠っています。これの整理の時間も欲しいところです。夢はさらに広がりそうです。

【注】

- (1) 「FORGET+V-ing の語法とその問題点」『英語教育』10（大修館、1980年）「再び Forget V-ing の語法とその問題点」『英語教育』3（大修館、1982年）
- (2) 「LATELY と RECENTLY は同義か」『英語教育』2（大修館、1980年）
- (3) 「Considerably の語法」*Lexicon*, No.11（岩崎研究会、1982年）
- (4) 「語法ノート April Fool's Day」*Lexicon*, No.17（岩崎研究会、1989年）
- (5) 「現代英語の語法観察」『研究紀要』第21号（島根県立松江南高等学校、1996年）「現代英語の語法観察(2)」『研究紀要』第22号（同、1998年）「現代英語の語法観察(3)」『研究紀要』第44号（島根県立松江北高等学校、2010年）「ボリンジャー博士の語法診断(1)～(12)」『現代英語教育』4～3（研究社、1990～1991年）「英和辞典のウソ(1)～(9)」『高校通信東書英語』No.124-134（1983～1984年）「英語研究法」『現代英語教育』3月臨時増刊号（研究社、1984年）
- (6) 「生徒に英語の学力をつけるために」『高英研』No.48（島根県高等学校英語研究会、2009年）『基礎と完成 新英文法』（数研出版）『DOLPHIN 英語基礎総合演習①②』（研究社）『センター試験必勝トレーニング英語』（東京出版）『重要問題演習英語リスニング』（ラーンズ）『Reading High-level』（ラーンズ）『TREND17 センター試験英語過去問題集 文法・語法頻出17項目の演習』（ピアソン桐原）